

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2274201702		
法人名	株式会社 アイケア		
事業所名	グループホームあいの街東新田		
所在地	静岡県静岡市駿河区東新田4丁目16-2		
自己評価作成日	平成29年1月6日	評価結果市町村受理日	平成29年2月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosyoCd=2274201702-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構		
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	平成29年1月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者一人一人の生活歴や残存能力を生かし、その人に合った個別ケアにて支援し、第二の家庭のように風通しのいい施設づくりをしている。また施設内だけではなく、屋外までの広い視野で行うように心がけ、毎月の行事は季節に添った計画や地域のイベントの参加など、御家族の協力を頂き、行事を行っている。職員一人一人が利用者様と大家族の中で生活を共にしている事を意識し、穏やかで温もりのある落ち着いた環境でコミュニケーションをとり、家族同様の生活が出来ている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

豊富な月行事で利用者と家族、職員が一つの輪になっている事業所です。グループに分かれ担当月で責任感を高め、「一つでも楽しく、面白く」「笑顔の時間に」をモットーに専門色の濃いレクリエーションが溢れています。例えば1月は「初詣、誕生会、七草粥、どんど焼き、鏡開き&お汁粉、音楽療法、壁画製作」と3~4日に1度と頻回で、また壁には今月の行事日程とともに翌月も掲示され、訪問の家族の行事参加を促進させています。家族アンケートにも「気兼ねなくいつでも行ける」「催事では家族同士が親しくなれて～」と喜びが溢れ、職員も時にはまげ頭やセーラー服に扮しての休出でイベントの応援者となっている姿勢に頭が下がります。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設「理念」を掲げ、職員全員が認識し、理念に近づける様努めている。	朝礼で唱和することを重ねる一方で、理念に基づいた年度のスローガンを作成し、そこから毎月の目標を用意しており、双方毎日目に触れるよう共用空間に貼り出し、事例からも十二分の浸透を確認できます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域清掃・幼稚園・小学校・公民館等との交流を始め、町内会に加入し、地域行事への参加、消防訓練などでも交流を深め、又法人全体で感謝祭など開催し、職員・利用者様全員参加し、地域の方々と交流している。	開設から11年となり、地域清掃にも隔月で加わり、事業所の感謝祭には地域から太鼓や朝採れ野菜の販売の協力と、ツウエイの関係が築かれています。また本年は小学4年生のクラス訪問があり折り紙等で盛り上がりました。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地元の行事等に参加し、地域の皆様と交流する事で認知症への理解を深めて頂き、小学校で福祉の勉強中に「認知症とは」を通して知って頂くよう取り組んでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度、運営推進委員会を開催し、ホームでの出来事や報告などを伝えると共に、家族からの要望・意見を聞き取り、包括・民生委員・自治会長・家族・職員と、様々な取り組みについても意見交換を行い、サービス向上に努めている。	介護相談員もメンバーとなり、PRとなる看板の取り付けやシニアサポート利用につながった例もあり、運営の力になってもらっています。隔月開催され、議事録も作成されています。	併設事業所との合同開催で、議事録も1枚のため、どちらの事柄か解るように記録することを期待します(記録係によっては分けてある書面もすでにあります)。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市担当者と、運営推進委員会での意見交換はある。必要に応じて連絡を取り運営している。地域包括とは、ささいな相談にも積極的に協力頂けるような関係を築いている。	市役所職員との話し合いの場は運営推進会議の年1度だけですが、地域包括支援センター職員はほぼ毎回出席くださり、地域住民の困りごとを通じて利用者紹介もあります。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員全員が禁止事項、身体拘束0宣言を理解しているが、ユニット入口を出ると2階は出入り口に階段があり、危険性を感じる為、家族様等には充分説明し、理解を頂いている。利用者様の言葉を遮ったり、気持ちを押さえつけない様配慮し、その人らしく生活出来る様支えている。	抑制や制御を感じる言葉は一切ないものの、職員数に余裕がないため勤務票に有給のないことは外部者として心配の一つです。そのようななかでも「事業所行事に休出する」職員の優しさ、誠実さが本件に良い方向へと反映しています。	2点期待します。①ユニット施錠を当たり前としないよう、時間を決めたり、定期で話し合うこと ②一時性、代替性、切迫性に係る書面があること、またその意図や使い方などを職員間で改めて見直す
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体観察をし、変化に気づく目を持ち、ミーティング等でマニュアルをもとに話し合い、介護放棄なども虐待である事を話し合い、虐待を未然に防ぐ対策を取っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護や成年後見制度など、個々の必要性について話し合い、理解を深める様努めている。重度化に伴い、次のサービス利用につなげる様支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書面をゆっくり・解るよう読み合わせ、説明している。家族様が十分に理解・納得できたのか、否かを確認し、随時間合せにも対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	本部より各事業所・家族様・地域に配布する通信と、施設内独自のお便りを毎月発行し、運営に反映している。また日頃から家族様や利用者様とコミュニケーションを図り、要望等をくみ取るようにしている。	健康フェア(筋肉測定など普段できない「身体を知る」取組み)をはじめ、家族に役立つことや楽しみとなるようなイベントが豊富で、家族アンケートは信頼関係が強固なことが滲む言葉が躍っています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のミーティングや研修会の時、一人一人の職員の意見や提案を反映している。日頃から家族様や利用者様とコミュニケーションを図り、要望等を汲み取るようにしている。	事業所行事をチームで取組むなかでの意見交換の活発さが功奏してか、現場では「此处離れます」「よろしく願います」と発信、受信が明瞭です。介助や見守りの連携の見事さには相互理解の高さが垣間見えます。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	事業所で定期的に人事考課に取り組む期間があり、管理者・職員の自己評価シートにて、勤務状況や個々の努力・適正を見出し、向上心を持って働ける環境を築いている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	本部で毎月研修をし、月2回のミーティング時に、本部へ研修に行った者が講師になり行う。外部研修も必要に応じて行っている。研修をする事で、個々の意識にも、研修参加の意欲も出る。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域連絡協議会に加入しており、研修や交流には積極的に参加するよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に面会し情報収集をすると共に、本人様 家族様の希望要望を聴取し関係づくりに努めている。又 入居待機時点で環境の変化が少ないようサービスを活用し対応している。本人様と面会 お話する機会を設け関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前に訪問いただき家族様の要望等聞き不安の解消に努めると共に信頼関係が作れるよう努める。入居後は個々の状態を報告し意見交換をするように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前訪問の情報を基に本人ベストの環境で生活が出来るよう、他サービスを含め共に考えるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の中で食事の準備 片付け 掃除 洗濯をたたく 季節の壁画作りなど出来る限り一緒に行い、大家族として生活しているという関係づくりに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃から何でも話しやすい雰囲気づくりを心掛けると共に、年数回ある行事を行い利用者 家族職員の信頼関係が築けるよう努めている。また月1度の「あいの街便り」で利用者の生活様子をお知らせし、家族との一体感が失われないように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出時、馴染の場へ立ち寄りたり友人訪問時に昔の話に耳を傾ける様心掛けています。個々の生活習慣を尊重し、継続的に交流が持てるように取り組んでいます。	家族アンケートは「まとまりがあって明るい」「職員が大変そうで心配」といった気持ちが伝わる内容で、家族も楽しみとする事業所行事での職員の頑張りも、利用者と家族をつなぐ十分な力となっていることが視えます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リクリエーションなどで全員で遊ぶ時間も設けられている。聞き間違いなどからトラブルになりそうな時は、必要に応じて仲裁 見守り 声掛けをするように努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後もこれまでの関係を断ち切らず、行事の参加等の案内をしている。又病院に入院している方には、折を見てお見舞いに出かけている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で言動からの意向の把握に努めている。言葉で意志を伝える事が困難な利用者に対しては、表情や体の動きを見て把握している。又ホワイトボードや発語ノートを利用している。	「今日は寒いね」といった一言を添えていくとともに「声掛けをしよう」ということを徹底させて、利用者の表情変化をバロメータとしてコミュニケーションの頻度を測り、職員は声掛けが介護の一環と心得ています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個々の生活歴等の把握に努め、家族様からも情報収集をするようにしている。何気ない会話からも情報を収集し意向の把握に努め職員全員が共有するようになっている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	身体状況や認知症の状況等の把握に努め、情報共有するようになっている。日々の関わりの中で言動からの意向の把握に努めると共に、家事や作業の分配を工夫したりと一日の過ごし方を考えている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に一度のカンファレンスを職員全員で行いケアの内容について情報交換し、本人様の全体像の把握に努め、本人にとって何が必要なのかを職員間で話し合い計画に取り入れるようにしている。	サービス担当者会議は家族と日程を調整しており、また介護計画書には専門家が関わっていることが明記され、「きちんとおこなう」という気構えが諸所伝わってきます。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の身体状況や認知症の状況等の把握に努め、情報共有するようになっている。本人の言動やそれに対する職員の対応などを記入し、朝夕の申し送りでも活用しカンファレンスや介護計画に役立てている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	事業所で出来る事だけにとらわれず、家族様の協力や医療面では往診等を取り入れ柔軟に対応するようになっている。グループホームだからこそ出来る支援の充実に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事への参加等を積極的に取り入れ閉ざされた生活とならない様に、自治会の文化展や近隣で買い物を通じ交流している。美容院も近隣でお願いしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時 地域にかかりつけ医がある方は引き続き利用され、特にないは協力医療機関をかかりつけ医とし、一か月に一度の定期往診をしている。	全員が月1度の訪問診療がある協力医に変更していますが、看取りについては他の医療機関を専任として位置付けています。内科以外の通院は家族が付添うことになっていません。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調 些細な表情の変化を見逃さないようにし早期発見に努めている。日々の情報を看護師と共有し、相談 指導を受け本人の生活を支えていけるように取り組んでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には情報交換したり、お見舞いを兼ねて相談に行くと共に、家族とも随時連絡を取り合いながら、退院時のスムーズな受け入れができるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化等の場合を想定し、家族様 かかりつけ医と十分に情報共有し、話し合い本人にとって何が最優先されるべきかを検討している。	本年度2名の看取りがありましたが、年齢や経験から職員に動揺もなく、無事見送ることができています。看取りに際しては24時間オンコールの医師に変更して万全を図り、緊急対応時の書面の用意もあります。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時と対応マニュアルを作成しいつでも観覧出来るようにしている。研修などで救命救急の講習を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回の総合防災訓練を実施し、具体的に避難方法は学んでいる。又 地域の方々の応援が得られるように努めている。	年2回の訓練にはどちらも消防署の職員と消防車が来訪して、搬送方法や水消火器の指導を丁寧に受けています。スモークハウスは隣近所には声をかけましたが参加者はなく職員が体験しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉使い 声掛けには十分に配慮して行い、自己決定を大切にケアしている。日々の関わり(トイレ介助 入浴介助など)の中で言葉には十分注意を払っている。	拳を握りしめる癖のある人の手から臭いがとれないことから看護師に相談して、茶殻を包んだものを握ってもらうようにしたところ改善した例もあり、常日頃から利用者が気持ちよく過ごせるようにとの職員の配慮があります。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話の中から本人の希望を見出し自らの思いを出せる様な雰囲気作り等を心掛け、表情やしぐさを見て自己決定出来るようにする。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者個々の時間を大切にし、穏やかな生活の実現のため取り組んでいる。本人の気持ちを尊重し、出来る限り個別性のある支援を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみ 清潔感に気をつけ、さりげなく支援し その人らしさが保てるようにしている。その時々希望や体調で臨機応変に対応している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事のときに会話を楽しみ時折、食材で季節を感じられるようにしている。個々の能力に応じ出来る事をして頂いている。	業者から食材と献立が届き、専任職員が調理しています。お誕生会には生クリームと蜜柑の缶詰でデコレーションしたり、バレンタインデーにはチョコのチーズフォンデュ風でと、イベント性の高い食事風景の日もあります。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に合わせて食事量、形態等を把握し食器や食べ方を工夫し提供している。食事の片付けなどは、職員と共に行う事がある。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一日三回の毎食後のうがい 歯磨きを行っている。個々の能力を把握し、必要に応じて援助し自立の方も含め、口腔内の状況観察に努めている。訪問歯科の往診有		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自尊心に配慮し、個々の身体能力に応じて支援し出来る限りトイレでの排泄が出来るように支援している。排泄能力、個々の排泄パターンの把握に努めている。	介護計画書には「トイレでの立位を促す」とあり、実際車いすでも自身で入室している利用者も見かけることができ、自立への支援が行き届いていることが伝わります。	新聞を読む人もいることから、トイレにある消耗品ボックスのネームはインシヤルや数字に替わることを期待します。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	カンファレンスなど利用し、個別に原因について話し合い飲食物 運動 服薬などを工夫している。排尿 排便状況についても記録をしている。又 水分摂取に力を入れお好みの物を召し上がって頂き摂取量を増やしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2~3回程度、入浴を提供している。個々その時々気分等も配慮しながら入浴への関心を高める工夫をしている。冬至には柚子湯にしたり、五月には菖蒲湯にしたり、季節感を出している。	入浴の時間帯を限定せず、その人の身体の調子や気分を優先し、また洗身も「細かな部分も」との配慮から、手袋を使っています。柚子等時節湯のほか、色や香りを堪能できる浴剤も使用しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間 安眠できる様、日中の活動を積極的にとり、生活リズムを確保する事に努めている。夜間は本人に任せ、体調や生活習慣や気分に合わせて入眠を促している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の担当を決め、その職員中心に薬の管理を行っている。服薬時は御本人と共に確認し、誤薬のない様に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活歴を把握し、生活の中で出来る事を把握し自ら出来るように支援している。季節の行事を大切に全員が参加出来る様にし又 掃除 洗濯など得意分野が生かせるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	当施設行事 地域行事など家族様の協力の下、戸外に出るきっかけを作り、気分転換、ストレス解消、五感の刺激を取り入れられるよう取り組んでいる。気候が穏やかな日は戸外に出て散歩など楽しんでいる。	年に1度は全員外出を目指しており、昨年は富士川楽座、本年は加茂荘の花鳥園にでかけ、家族もドライバーをかってでてくれ、グループに分かれて愉しんでいます。毎月1回程度いちご狩り、ピクニック、日本平動物園、はま寿司などのミニ外出にも尽力しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々の金銭所持はトラブルの原因になるので認めていない。物品購入は立て替えで支払いする等に対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個々の希望により対応している。本人の意向により電話の取次ぎは可能であり、手紙を書くなど出来る事を支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースは殺風景にならない様に季節の壁画を飾っている。日向ぼっこが出来るスペースを造ったり音楽や照明は利用者の意向を確認しながら、調整をしている。	目覚まし時計をタイムキーパーとして「セラ捲き」を2時間に1度実施し、感染対策を確実にしています。行事では「兎に角写真を沢山撮る」を旨として2階までの廊下に満載で、今月の行事、翌月の日程も大きく貼り出されているほか、季節掲示も賑やかです。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースには、家の居間を思わせるようなテレビなどあり 利用者が思い思いに過ごせるように工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の馴染みのある小物やタンスなどの持ち込みは自由で、壁面には誕生日カードなど飾っている。ベット カーテンは備え付けの物を使用している。(防火対応)	小ぶりのクローゼットが予め配されていますので大きな持ち込みはありませんが、チェストやテレビ、仏壇とその人の大切にしているものに囲まれていることを視認しました。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各所に手すりの設置があります。なるべく障害物を置かないよう配慮している。		